

エコアクション21
環境経営レポート

2018年度

2018年9月1日～2019年8月31日

2020年1月 改訂

株式会社野生動物保護管理事務所

目次

1. 組織の概要	2
2. 対象範囲・環境管理実施体制表	3
3. 環境経営方針	5
4. 基準年の環境負荷と環境経営目標	6
5. 環境経営計画・環境目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組内容	8
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無	13
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	14

1. 組織の概要

(1) 対象事業所及び代表者氏名

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎 伸一郎

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西分室副室長)
環境経営担当者	小黒 大貴 (全社)

①事業所名：本社（計画策定支援室・遺伝情報解析室・総務部）

所在地：東京都町田市小山ヶ丘1-10-13

（2019年9月1日事業所移転：東京都八王子市小宮町922-7）

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西分室副室長)
調査研究部門責任者	奥村 忠誠 (本社事業部長)
環境経営担当者	三井 夏紀
連絡先	電話：042-798-7545 E-mail：kato@wmo.co.jp

②事業所名：関西分室

所在地：兵庫県神戸市北区有野町有野3457-1

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西分室副室長)
調査研究部門責任者	岸本 真弓 (関西分室長)
環境経営担当者	井ノ口 直美
連絡先	電話：078-982-3340 E-mail：kato@wmo.co.jp

(2) 事業活動の内容

- ・野生鳥獣の保護に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント

(3) 事業の規模

売上高：7.29 億円（2018 年度）

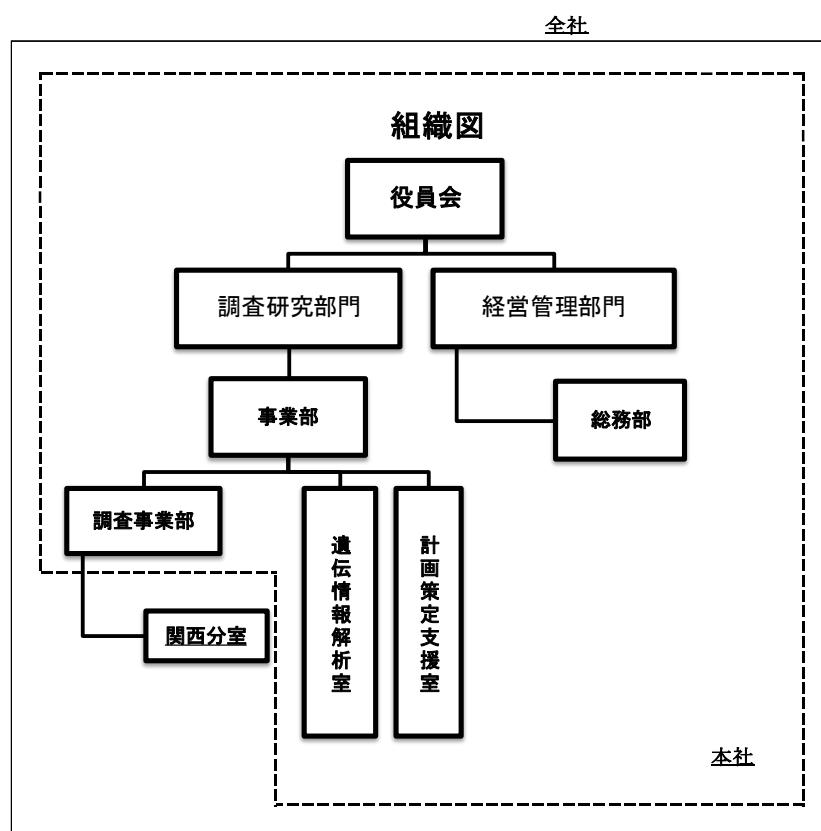
会計年度：当該年度 9 月～翌年 8 月

	本社	関西分室
従業員数（人）	39	22
延床面積（m ² ）	198.4	318.94
売上	4.13 億円	3.16 億円

2. 対象範囲・環境経営実施体制表

(1) 認証・登録対象組織

全社・全組織

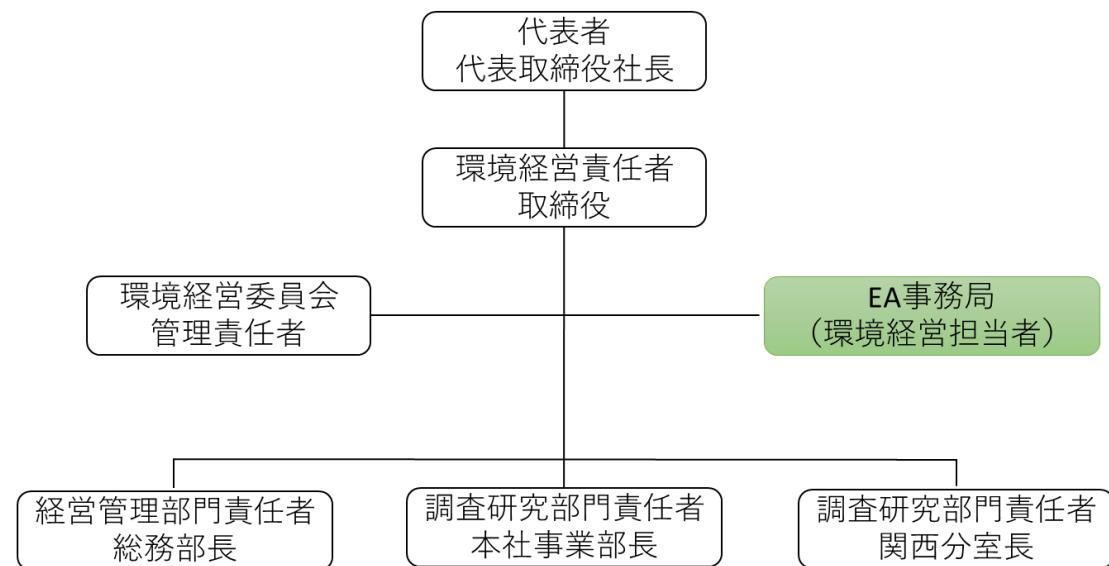


(2) 認証・登録対象活動

- ・野生鳥獣の保護に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント

(3) 環境経営実施体制表

環境経営実施体制表



役割	責任および権限
代表取締役	<ol style="list-style-type: none"> 環境経営責任者の任命 環境経営方針の制定 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 環境経営システムの定期的見直しの実施 社内情報の外部公開可否決定
環境経営責任者	<ol style="list-style-type: none"> 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 代表取締役への環境経営システムの実施状況報告 諮問機関である環境経営委員会の委員長として委員会の運営 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 関連法規のとりまとめ表の維持管理、遵守徹底 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> 環境経営責任者の補佐
環境経営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境経営実績の確認・評価
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 環境上の緊急事態への準備及び対応

3. 環境経営方針

株式会社野生動物保護管理事務所の環境経営方針

基本理念

株式会社野生動物保護管理事務所は、生物多様性条約の理念にのっとり、野生動物の保護管理を推進するために活動しております。人口減少時代に向かう中、増大する野生動物と人の軋轢に対処するべく、社会に貢献してまいります。さらに、温暖化をはじめとする、人間活動による地球環境全体への影響は、野生生物にも少なからず影響が及んでいる現状があることから、自らの事業運営にあたっても、環境に配慮し、自然共生社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 電気・水道水・電力及び燃料使用の省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 事業活動に伴う廃棄物の削減に努め、再使用、再生利用の推進に努めます。
4. 事業活動に伴う薬品の適切な使用・保管・廃棄に努めます。
5. グリーン購入を積極的に推進します。
6. 事業活動を通じて、生物多様性保全の推進に努めます。

平成30年9月1日制定

株式会社野生動物保護管理事務所

濱崎伸一郎
代表取締役

4. 基準年の環境負荷と環境経営目標

①全社

環境目標	単位	基準年				年度目標		中期目標						原単位の分母		
		4か年(2014~2017年度)平均						2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		
		2017年度(平成28年9月1日~平成30年8月)		売上高(百万円)	従業員(人)	45.3	2018年9月~2019年8月	19年9月~20年8月	20年9月~21年8月	21年9月~22年8月	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	
		原単位換算				実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	
1 排出 二 酸化 炭 素	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	42,401 (kg-CO ₂)	22,035	67.2 34.9	41,553 21,594	65.8 34.2	40,722 21,162	64.5 33.5	39,907 20,739	63.2 32.9	39,109 20,324	62.0 32.2	売上高 (百万円)		
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	48,031 (kg-CO ₂)	111,511	76.1 176.7	47,551 110,396	75.3 174.9	47,075 109,292	74.6 173.1	46,604 108,199	73.8 171.4	46,138 107,117	73.1 169.7	売上高 (百万円)		
	③二酸化炭素排出量の削減	(kg-CO ₂)	133,574		211.6	130,903	207.4	128,284	203.2	128,284	203.2	125,719	199.2	売上高 (百万円)		
2 廃 棄 物 の 削 減 率	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	1,977		43.7	1,918	42.4	1,860	41.1	1,804	39.9	1,750	38.7	従業員数		
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	2,454		3.9	2,429	3.8	2,405	3.8	2,381	3.8	2,357	3.7	売上高 (百万円)		
3 水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m ³	295		6.5	289	6.4	283	6.3	278	6.1	272	6.0	従業員数			
4 コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	865		1.37	848	1.34	831	1.32	814	1.29	798	1.26	売上高 (百万円)			
5 グリーン購入 (前年度比3%増)	品目数	104		–	107	–	110	–	114	–	117	–	–	–		
6 製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)	受託業務 件数	180		–	182	–	184	–	185	–	187	–	–	–		

本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-CO₂/kWh
分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.514kg-CO₂/kWh
本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

重点目標

②本社

環境目標	単位	基準年				年度目標		中期目標						原単位の分母		
		4か年(2014~2017年度)平均						2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		
		2017年度(平成28年9月1日~平成30年8月)		売上高(百万円)	従業員(人)	25.8	2018年9月~2019年8月	19年9月~20年8月	20年9月~21年8月	21年9月~22年8月	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	
		原単位換算				実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	
1 排出 二 酸化 炭 素	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	22,997 (kg-CO ₂)	12,067	72.8 38.2	22,537 11,826	71.4 37.5	22,086 11,589	69.9 36.7	21,645 11,357	68.5 36.0	21,212 11,130	67.2 35.3	売上高 (百万円)		
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	14,455 (kg-CO ₂)	33,559	45.8 106.3	14,310 33,223	45.3 105.2	14,167 32,891	44.9 104.2	14,026 32,562	44.4 103.1	13,885 32,237	44.0 102.1	売上高 (百万円)		
	③二酸化炭素排出量の削減	(kg-CO ₂)	45,648		144.6	44,735	141.7	43,840	138.8	43,840	138.8	42,964	136.1	売上高 (百万円)		
2 廃 棄 物 の 削 減 率	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	852		33.1	826	32.1	802	31.1	778	30.2	754	29.3	従業員数		
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	2,430		7.70	2,406	7.62	2,382	7.54	2,358	7.47	2,334	7.39	売上高 (百万円)		
3 水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m ³	160		6.2	157	6.1	154	6.0	151	5.8	148	5.7	従業員数			
4 コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	747		2.37	732	2.32	717	2.27	703	2.23	689	2.18	売上高 (百万円)			
5 グリーン購入 (前年度比3%増)	品目数	30		–	31	–	32	–	33	–	34	–	–	–		
6 製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)	受託業務 件数	63		–	64	–	64	–	65	–	66	–	–	–		

本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-CO₂/kWh
分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.514kg-CO₂/kWh
本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

重点目標

③関西分室

環境目標	単位	基準年				年度目標		中期目標						原単位の分母	
		4か年(2014~2017年度)平均						2018年度		2019年度		2020年度			
		2017年度(平成29年9月1日~平成30年8月)		2018年9月~2019年8月		19年9月~20年8月		20年9月~21年8月		21年9月~22年8月					
原単位換算				実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算	実績	原単位換算		
1 売上高 二酸化炭素 排出量の削減	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	19,404	61.5		19,016	60.3	18,636	59.1	18,263	57.9	17,898	56.7	売上高 (百万円)	
	(kg-CO ₂)	9,968		31.6		9,769	31.0	9,573	30.3	9,382	29.7	9,194	29.1		
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	33,576	106.4		33,240	105.4	32,908	104.3	32,579	103.3	32,253	102.2	売上高 (百万円)	
	(kg-CO ₂)	77,952		247.1		77,172	244.6	76,401	242.2	75,637	239.7	74,880	237.3		
	③二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO ₂)	87,926	278.7		86,167	273.1	84,444	267.7	84,444	267.7	82,755	262.3	売上高 (百万円)	
2 廃棄物 排出量	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	1,125	57.7		1,091	56.0	1,059	54.3	1,027	52.7	996	51.1	従業員数	
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	24	0.08		23.8	0.08	23.5	0.07	23.3	0.07	23.1	0.07	売上高 (百万円)	
3 水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m ³	135		6.9		132	6.8	130	6.6	127	6.5	125	6.4	従業員数	
4 コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	118		0.37		116	0.37	113	0.36	111	0.35	109	0.34	売上高 (百万円)	
5 グリーン購入 (前年度比3%増)	品目数	74		-		76	-	79	-	81	-	83	-	-	
6 製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)	受託業務 件数	117		-		118	-	119	-	121	-	122	-	-	

本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:0.323kg-CO₂/kWh
分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:0.514kg-CO₂/kWh
本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

重点目標

5. 環境経営計画・環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組内容

①全社

推進項目		結果	評価	達成率(%)	未達原因・達成理由	是正措置／改善施策(次年度の取組内容)	
1①	(電力の削減)		実績 41,656 kWh	×	99.8	・全社的に従業員数や業務受注量が増えたことが電力消費量の増加に起因している。 ・労務管理の改善による夜間残業時間の軽減 ・センター式ライトの導入 ・クールビズ、ウォームビズを推進。	・社内会議等の場において現状説明を設け、部門間で改善策について情報共有を行い、課題について共通認識を高めながら各自の取組に反映させる。
	目標:前年比2%削減 実績 42,401 kWh → 目標 41,553 kWh 原単位 67.2 → 目標 65.8	原単位換算 57.1	○	115.2			
1②	(ガソリン使用量の低減)		実績 54591 L	×	87.1	・業務の特徴として、遠方での調査業務が多い関西分室でのガソリン使用量が多い傾向がある。	・全社的にCO2排出量は主にガソリン使用量によるものである。
	目標:前年比1%削減 実績 48,031 L → 目標 47,551 L 原単位 76.1 → 目標 75.3	原単位換算 74.9	○	100.5			
1③	二酸化炭素削減		実績 148,425 kg-CO2	×	88.2	・従業員数や業務受注量が増えたことにより廃棄物量は増えてしまったが、一方で各部門の削減努力により、効率化が図られている。	・リサイクルの推進 ・ペーパーレス化促進 ・物品の在庫管理を徹底し、無駄な購入を控える。 ・食器具の共用化、弁当・マイボトルを推奨する。
	実績 133,574 kg-CO2 → 目標 130,903 kg-CO2 原単位 211.6 → 目標 207.4	原単位換算 203.6	○	101.9			
2①	一般廃棄物排出量削減		実績 2,298 kg	×	83.5	・各部門の取組により効率よく排出量を削減できている。	・職員の技術向上により、医療器具の使用量を削減する。 ・無駄な廃棄がないよう、在庫管理を徹底する。
	目標:前年比3%削減 実績 1,977 kg → 目標 1,918 kg 原単位 43.7 → 目標 42.4	原単位換算 37.7	○	112.5			
2②	産業廃棄物排出量削減		実績 78 kg	○	3114.1	・全社的に車両の台数が増え、洗車等の回数が増えた。 ・関西分室のように、特殊業務の発生により車両、物品の洗浄頻度が増えたことも原因である。	・節水意識の向上のための普及活動 ・水道蛇口に注意喚起のための看板を設置する。 ・無駄のないように計画的に水を運搬する。
	目標:前年比1%削減 実績 2,454 kg → 目標 2,429 kg 原単位 3.9 → 目標 3.8	原単位換算 0.1	○	3551.5			
3	排水量削減		実績 393 m³	×	73.5	・削減努力は認められるが、業務量の増加等により紙の使用量の削減目標は達成できなかった。	・電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進する。 ・裏紙の再利用を引き続き推進する。 ・印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意する。
	目標:前年比2%削減 実績 295 m³ → 目標 289 m³ 原単位 6.50 → 目標 6.40	原単位換算 6.44	×	99.3			
4	コピー紙使用量の削減		実績 749 kg	×	113.2	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示する	・事務所内で使用する日用品等についても積極的にグリーン購入を進める。
	目標:前年比2%削減 実績 865 kg → 目標 848 kg 原単位 1.37 → 目標 1.34	原単位換算 1.03	○	130.4			
5	グリーン購入		実績 112 品目	○	104.7	・積極的な営業活動により業務受注量が増えた。 ・研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた。	・業務成果の質の向上等に努める。 ・人材の確保、育成によりニーズに貢献できる社内体制を構築する。
	目標:前年比3%増 実績 104 品目 → 目標 107 品目 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-			
6	製品及びサービスに関する項目(環境配慮)		実績 203 件	○	111.5	・研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた。	・研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた。
	目標:前年比1%増 実績 180 件 → 目標 182 件 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-			

注: 化学物質(PTR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。
本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-CO2/kWh
分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.14kg-CO2/kWh

②本社

2018年9月～2019年8月 ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達原因・達成理由	是正措置／改善施策(次年度の取組内容)
	(電力の削減)	実績 23,201 kWh	×	97.1	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・労務管理の改善による夜間残業時間の軽減 ・センター式ライトの導入 ・クールビズ、ウォームビズを推進。
1①	目標:前年比2%削減 実績 22,997 kWh → 目標 22,537 kWh 原単位 72.8 → 目標 71.4	原単位換算 56.2	○	127.0	・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・不要照明の消灯の励行 ・エコ普及ステッカーによる意識向上	・取組の継続
1②	(ガソリン使用量の低減)	実績 16,827 L	×	85.0	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・エコカー(移動用・軽作業用)の配備を検討 ・公共交通機関の利用促進 ・燃費確認ができるツールの導入
1③	目標:前年比1%削減 実績 14,455 L → 目標 14,310 L 原単位 45.8 → 目標 45.3	原単位換算 40.7	○	111.3	・従業員へのエコドライブ普及啓発、教育指導を強化 ・走行距離記録簿の配布	
2①	二酸化炭素削減	実績 51,265 kg-CO2	×	87.3	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・ガソリン使用量の削減を重点課題とし、エコドライブを意識する。
	目標:前年比2%削減 実績 45,648 kg-CO2 → 目標 44,735 kg-CO2 原単位 144.6 → 目標 141.7	原単位換算 124.1	○	114.2	・1①,1②の改善施策の推進	・取組の継続
2②	一般廃棄物排出量削減	実績 1,248 kg	×	66.2	・事業規模(従業員数・受注量)の増加に伴い、社外業務が増加	・リサイクルの推進 ・ペーパーレス化促進
	目標:前年比3%削減 実績 852 kg → 目標 826 kg 原単位 33.1 → 目標 32.1	原単位換算 32	○	100.3	・計画的な物品購入の励行 ・紙類等の再利用、リサイクル促進	・取組の継続
2③	産業廃棄物排出量削減	実績 60 kg	○	4010.0	・不要な廃棄物をなるべく排出しないプロジェクト運営の推進 ・再利用の励行	・取組の継続
	目標:前年比1%削減 実績 2,430 kg → 目標 2,406 kg 原単位 7.7 → 目標 7.6	原単位換算 0.1	○	7620.0		
3	排水量削減	実績 245 m³	×	64.1	・事業規模(従業員数)の増加 ・社有車台数の増加に伴う洗車回数の増加	・節水意識の向上のための普及活動
	目標:前年比2%削減 実績 160 m³ → 目標 157 m³ 原単位 6.20 → 目標 6.10	原単位換算 6.30	×	96.8		
4	コピー紙使用量の削減	実績 553 kg	○	132.4	・両面印刷の徹底 ・裏紙の利用促進 ・デジタル化による紙媒体の減少(ペーパーレス化)	・電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進する。 ・裏紙の再利用を引き続き推進する。 ・印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意する。
	目標:前年比2%削減 実績 747 kg → 目標 732 kg 原単位 2.37 → 目標 2.32	原単位換算 1.30	○	178.5		
5	グリーン購入	実績 31 品目	○	100.0	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示する	・事務所内で使用する日用品等についても積極的にグリーン購入を進める。
	目標:前年比3%増 実績 30 品目 → 目標 31 品目 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-		
6	製品及びサービスに関する項目(環境配慮)	実績 64 件	○	100.0	・積極的な営業活動により業務受注量が増えた。 ・研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた。	・業務成果の質の向上等に努める。 ・人材の確保、育成によりニーズに貢献できる社内体制を構築する。
	目標:前年比1%増 実績 63 件 → 目標 64 件 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-		

注: 化学物質(PRTR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。
本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-CO2/kWh
分社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.14kg-CO2/kWh

③関西分室

2018年9月～2019年6月 ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達原因・達成理由	是正措置／改善施策(次年度の取組内容)
1①	(電力の削減)	実績 18,455 kWh	○	103.0	・クールビズ、ウォームビズを推進し、エアコンの消費電力を抑えた。	・高温になる前に、低すぎない程度の温度に設定して、早めに冷房を入れたほうが作業の能率はあがり結果的に残業の抑制につながる
		目標: 前年比2%削減 実績 19,404 kWh → 目標 19,016 kWh 原単位 61.5 → 目標 60.3	原単位換算 58.4	○	103.3	・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・不要照明の消灯の励行 ・エコ普及ステッカーによる意識向上
1②	(ガソリン使用量の低減)	実績 37784 L	×	88.0	・業務量が増加したことにより現地調査で使う車両台数および使用頻度、ガソリンが増えた。	
		目標: 前年比1%削減 実績 33,576 L → 目標 33,240 L 原単位 106.4 → 目標 105.4	原単位換算 119.5	×	88.2	
1③	二酸化炭素削減	実績 97,160 kg-CO2	×	88.7	・CO2排出量は、主にガソリン使用量に起因する。	・ガソリン使用量の削減を重点課題とし、エコドライブを意識する。
		目標: 前年比2%削減 実績 87,926 kg-CO2 → 目標 86,167 kg-CO2 原単位 278.7 → 目標 273.1	原単位換算 307.5	×	88.8	
2①	一般廃棄物排出量削減	実績 1,050 kg	○	103.9	・乾電池は残量チェックし使えるもの再利用に努めた。 ・紙の再利用を推進した。 ・ゴミの量を意識した。	・物品の在庫管理を徹底し、無駄な購入を控える。 ・食器具の共有化、弁当・マイボトルを推奨する。
		目標: 前年比3%削減 実績 1,125 kg → 目標 1,091 kg 原単位 57.7 → 目標 56.0	原単位換算 47.7	○	117.4	
2②	産業廃棄物排出量削減	実績 18 kg	○	132.2	・医療系廃棄物を無駄なく使用し、消毒等して再利用できるものは再利用に努めた。	・職員の技術向上により、医療器具の使用量を削減する。 ・無駄な廃棄がないよう、在庫管理を徹底する。
		目標: 前年比1%削減 実績 24.0 kg → 目標 23.8 kg 原単位 0.08 → 目標 0.08	原単位換算 0.06	○	140.4	
3	排水量削減	実績 148 m³	×	89.2	・特殊業務の発生により車両、物品の洗浄頻度が増えた。 ・事務所から水を運搬して現場で使用する業務が増えた。	・水道蛇口に注意喚起のための看板を設置する。 ・無駄のないように計画的に水を運搬する。
		目標: 前年比2%削減 実績 135 m³ → 目標 132 m³ 原単位 6.90 → 目標 6.80	原単位換算 6.73	○	101.1	
4	コピー紙使用量の削減	実績 196 kg	×	59.2	・業務で使う内部資料、報告書等が増えた。	・電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進する。 ・裏紙の再利用を引き続き推進する。 ・印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意する。
		目標: 前年比2%削減 実績 118 kg → 目標 116 kg 原単位 0.37 → 目標 0.30	原単位換算 0.62	×	48.4	
5	グリーン購入	実績 81 品目	○	106.6	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示した。	・事務所内で使用する日用品等についても積極的にグリーン購入を進める。
		目標: 前年比3%増 実績 74 品目 → 目標 76 品目 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-	
6	製品及びサービスに関する項目(環境配慮)	実績 139 件	○	117.8	・積極的な営業活動により業務受注量が増えた。 ・研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた。	・業務成果の質の向上等に努める。 ・人材の確保、育成によりニーズに貢献できる社内体制を構築する。
		目標: 前年比1%増 実績 117 件 → 目標 118 件 原単位 - → 目標 -	原単位換算 -	-	-	

注: 化学物質(PRTR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。
本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-CO2/kWh
分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.14kg-CO2/kWh

WMOエコアクション21 取組紹介

再利用しています

裏紙の再利用



コピー用紙として再利用

ダンボールの再利用



使用済みクリアファイルの再利用



ナイロン袋の再利用



使用済み封筒の再利用



緩衝材の再利用



電池は捨てずに残量チェックをして再利用しています



資源ゴミを分別・回収しリサイクルしています



ビン・缶・ペットボトルの分別・回収

新聞紙や包装紙も捨てずに再利用しています。



エコなオフィスワークを推進しています



共用品を配備

お弁当・マイボトルの持参

プラスチック・紙皿・紙コップ等のゴミを削減



調査機材の整理整頓
⇒無駄な物品の購入を予防
資材の管理も再利用ダンボールで



カレンダーの
綺麗な写真を再利用して景観UP



太陽光発電の導入

エコな空調管理



Warm Biz

ドアのこまめな開け閉め



エアコンフィルター
の掃除・交換

天井サーキュレーター



エコ活動を普及啓発しています



スイッチ周りのパネルで注意喚起

WMOエコアクション環境目標

1. CO₂排出量の削減
2. 廃棄物排出量の削減
3. 資源の投入
4. 水の使用料の削減
5. グリーン購入
6. 製品及びサービスに関する項目



エコドライブの普及啓発

2019年11月 社内会議にて

エコドライブ10のすすめ

- ① ふんわりアクセル「eスタート」
- ② 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- ③ 減速時は早めにアクセルを離そう
- ④ エアコンの使用は適切に
- ⑤ ムダなアイドリングはやめよう
- ⑥ 洗濯を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑦ タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑧ 不要な荷物はおろそう
- ⑨ 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- ⑩ 自分の燃費を把握しよう



社員全体で活動結果と目標の共有
2019年5月 WMO総会にて

ガソリン燃費の「見える化」
でエコドライブ意識向上

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

法的要求事項等の名称	監視・測定項目 (適用施設・業務等)	法的要求事項の内容及び基準	監視・測定プロセス、 使用機器等	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃プラスチック類、 金属くず、ゴム屑、 ガラスくず及び陶磁器くず、 廃酸、廃アルカリ 感染性廃棄物	産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
		産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
		特別管理産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
		特別管理産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
		特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	—	○
		産業廃棄物管理票交付等状況報告書	—	○
		産業廃棄物管理票による管理	マニフェスト伝票	○
フロン排出抑制法	業務エアコン、冷凍冷蔵庫	廃棄の場合のフロンの適切な処置 簡易点検	—	○
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、 冷蔵庫、洗濯機、電気冷凍庫	特定家庭用機器の長時間使用と適切な廃棄	—	○
自動車リサイクル法	普通自動車	自治体の登録を受けた引取業者への廃車の引渡し義務 新車購入時又は車検時における再資源化等料金(リサイクル料金)等の預託	—	○
グリーン購入法		環境物品等の調達努力	—	○
毒物及び劇物取締法	硝酸	毒物及び劇物についての取締の遵守	管理帳簿・MSDS	○
麻薬及び向精神薬取締法	ケテン	麻薬及び向精神薬についての取締の遵守 麻薬研究者の届出	管理帳簿・MSDS	○
消防法		消火器の設置、火災警報設備の設置	—	○
生物多様性基本法		事業者の責務 (事業活動を行うに当たって、事業活動が生物の多様性に及ぼす影響を把握するとともに、他の事業者その他の関係者と連携を図りつつ生物の多様性に配慮した事業活動を行うこと等により、生物の多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めること)等	—	○
環境基本法		事業者の責務 (事業活動を行うに当たって生ずるばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するため必要な措置を講ずること、環境の保全上の支障を防止するため、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たって、その事業活動に係る製品その他の物が廃棄物となった場合にその適正な処理が図られることとなるように必要な措置を講ずること、環境への負荷の低減その他環境の保全に自ら努めること)	—	○
自然環境保全法		自然環境の適正な保全が図られるように努めること、自然環境の保全に当たって、関係者の所有権その他の財産権を尊重するとともに、国土の保全その他の公益との調整に留意すること、原生自然環境保全地域・自然環境保全地域の保護規制の遵守	—	○
自然公園法		自然公園の保護及び利用の規制の遵守	—	○
鳥獣保護管理法		鳥獣の捕獲等等の規制(捕獲許可申請)、狩猟免許	—	○
外来生物法		特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬、輸入その他の取扱いに関する規制の遵守、特定外来生物の防除	—	○
種の保存法		個体等の取扱いに関する規制の遵守	—	○
文化財保護法		現状変更等の制限(現状変更許可申請)	—	○
森林法		保安林における制限(保安林内作業許可申請)	—	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟は過去3年間ありません。

並びに関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。又、近隣からの苦情等はありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

エコアクション21の導入開始から本社では6年、関西分室では5年が経過しました。

これまで、各環境目標を達成するため社員一人一人の意識向上と着実な実践を図るとともに、会社としても環境負荷軽減のため業務効率化、省エネ機材の導入などに取り組んできました。しかし、業務量（売上高）の増大、それに伴う社員数の増加など、会社規模の拡大により目標を達成できない項目が少なくありませんでした。このままでは、社員を含めた会社の取り組みとして適切な評価と成果の実感が得られず、取り組み意欲の維持が難しいと判断し、原単位（売上高、社員数）換算した数値ベースの目標設定と評価のしくみを取り入れました。

その結果、今回の評価においては、取り組みの成果が現れている項目、取り組み不足として腑に落ちる項目など、今後の改善に向けてより説得力のある結果が得られたと考えています。今回の結果を会社として真摯に受け止めるとともに、社員の理解も促しながら、より具体的なアクションに繋げていきたいと思います。

また、この1年間の取り組みで特筆する点として、各部門社員からのエコアクション委員選出が挙げられます。まだ十分に機能しているといえないものの、社員意識の向上、社員から出されたアイデアの具現化と実践という形で少しづつ成果が現れています。

今年9月に本社が町田市から八王子市に移転しました。移転に際してのリフォーム工事では、社屋をオール電化にするとともに、熱交換形換気機器の設置、照明と冷暖房システムにおいても電力効率の高い機材を導入するなど会社としての取り組みを進めました。しかし、社屋の規模が3倍になったため水光熱費は増加することが予想されます。省エネ、省資源、業務効率化をより一層進め、移転を契機としてエコアクション活動が加速するよう取り組んでいきます。

(2) 見直しの結果

① 電力使用量については、会社全体の総量では目標を達成できなかったが、原単位換算では目標を達成した。また、事業所単位でみると、関西分室では総量でも目標を達成しており、取り組みの成果と評価できる。本社社屋の規模拡大により使用電力量は増加が見込まれることから、エアコン設定温度の適正化、不要照明の消灯徹底などこれまでの取り組みをさらに進め、原単位換算目標を達成できるよう進めていく。また、働き方改革を進めることによる一人あたりの就業時間短縮が、当項目の目標達成にも役立つことから、会社としても業務効率化の努力を続けていく。

② ガソリン使用量については、各事業所とも総量では目標を達成できなかった。原単位換算では会社全体では目標を達成できたが、事業所単位では関西分室は目標に届かなかった。当社の業務上、自動車の利用頻度は高く、環境負荷の原因となる大きな要素である。したがって、新たに設置したエコアクション委員のリードにより社員の意識向上を進め、エコドライブを励行するとともに、公共交通機関の利用促進に努める。また、会社としては燃費性能の優れた自動車を導入していく。

③ 廃棄物排出量については、産業廃棄物は総量、原単位換算ともに目標を達成した。一般廃棄物については、原単位換算では目標を達成したが、総量では目標を達成できなかった。会社の規模拡大による総量の増加を抑制することには限界があるが、資機材の再利用、リサイクルの促進、適切な使用方法の周

知による機材の耐用年数向上など、モノを大切にする取り組みをさらに進めていく。

④ 水使用量の削減は、会社全体では総量、原単位換算ともに目標を達成できなかった。事業所単位では、関西分室で原単位換算目標を達成できた。社員数の増加、社有車数増による洗車回数の増加が主な原因と考えられるが、本社では原単位換算でも目標を達成できていないことから、より一層節水意識を高めていく。

⑤ コピー紙使用量については、会社全体では原単位換算では目標を達成したが、総量では目標を達成できなかった。事業所別では、本社が総量においても目標達成できたのに対し、関西分室は原単位換算でも目標を達成できていない。会議運営業務（検討会、研修会開催業務）の増加に伴う配付資料印刷の増大、大量の調査票が必要な業務の受注など、やむを得ない要因はあるが、資料の最適化の努力、両面印刷の徹底などにより削減に努めていく。また、社内資料においてはペーパーレス化を促進する。

⑥ グリーン購入については、各事業所とも目標を達成できた。今後もグリーン購入法に基づく物品をリスト化し、該当品目の購入を促進する。

⑦ 次年度の EA21 環境経営システムの変更可否判断

環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画等の EA21 環境経営システムの大きな方向性は変更しない。今年度からはエコアクション 21 ガイドライン 2017 年版に沿った取り組みを開始する。また、今後は原単位換算した数値を基準にし、すべての項目で目標を達成できるよう、より効果的な取り組みを提案しながらその実践に繋げていく。

（3）今後の取り組み

環境経営方針に示しているとおり、当社は適切な野生動物保護管理の推進を通して我が国の生物多様性保全を図り、社会に貢献することを基本理念としています。しかし、これらの業務の遂行においても環境負荷の発生は避けられません。必要なことは環境負荷を可能な限り低減する意識の醸成と行動であり、事業運営にあたっても環境に最大限配慮していく必要があります。

今期は本社の移転に伴い事務所環境が大きく変わりますが、事務所移転を機に、充実した環境経営について社員一同取り組んでいきます。